

文部科学省新規採用職員入省式

盛山大臣が訓示「健康を十分管理し、時間を大事に」

文部科学省は4月1日、令和6年度文部科学省新規採用職員入省式を文科省第2講堂で執り行った。今年度の新規採用職員数は、総合職が31名(うち既入省者2名)、一般職が29名(同6名)の計60名。

式では、盛山正仁文科大臣の前に入省者代表が服務の宣誓を行った。続いての入省者代表挨拶では、稲尾由梨さんが「文部科学省が所掌する教育、科学技術、スポーツ、文化芸術の各分野は、人の心を育み、人生における様々な選択肢や可能性を広げ、社会を豊かにするものです。これらの文部科学行政に携わることには大きな喜びを感じています。新規採用職員一人ひとりがそれぞれの志を忘れることなく、職務に邁進することをここに誓います。代表挨拶とさせていただきます」と決意を述べた。最後に、盛山文科大臣が訓示を述べた。

盛山文科大臣の訓示(概要)

「私は1977年に(運輸省に)入省しました。今から47年前になります。私にも皆さんと同じような時期があったのかなと、つい思い出しながら2人の挨拶を伺っていました。私自身、ここ文科省に来たのは昨年9月。私も皆さんとあまり変わりません。まだ1年生といえれば1年生です。ただ役所には28年ほどいましたので、役人としては皆さんの若干の先輩で、選挙に出ているものですから社会経験も皆さんよりも少しあります。老練心ながら、私を感じるところを2つ、3つだけ申し上げます。まず健康であって頂きたい。暴



入省者に訓辞を述べる盛山文科大臣(文科省第2講堂)



盛山文科大臣(左)に代表挨拶を述べる入省者代表

飲暴食を避けるなども含め、自身の健康をどう管理していくかは自分で出来ることです。健康は自身で守らなければならない。健康でないといくら素晴らしい能力があっても何かを達成することはできません。まずは健康であること、これが第一だと思います。2つ目は、時間を大事にして下さいということ。時間というのは皆さん同じように流れていきます。その時間をこれから皆さんの5年後、10年後が変わっていきます。皆さん自身が自分の時間を大事にして、考えていくことが大事だと思います。人生に無駄はないという言葉がありますが、その通りだろうと思います。健康を十分管理して、自分の思うようなポストでなくとも、極端な話で左遷されても腐ったらずけです。腐らずにそこで何を自分は成すべきか、何をすれば良いのかを考えながら自分の時間を大切にしていけること、それがこれからの将来につながると思います。あつという間に時間は経っていきます。年金だとか私も若いときには気にもしたことがなかった。でもそういう歳にあつという間になります。だからこそ、くだいようですが自分の時間をとにかく大事にして下さい。健康で、文部科学省の中で事務次官以下、上司の方々と楽しく仕事をさせて頂けるよう心から祈念しまして、老練心ながらの挨拶とさせていただきます。本日は誠におめでとうございます。これから一緒に頑張ってくださいませう」